
魔王のお妃さま

johnny

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔王のお妃さま

【Nコード】

N7412T

【作者名】

johnny

【あらすじ】

平凡な家庭の三女として産まれて19年…

学校帰りの駅、いつもと同じ様に同じ位置で電車を待っていたとき、いきなりホームから突き落とされて…

非現実的な豪華な部屋で剣突き付けられています！

自己満足&ご都合主義の平凡以下な頭した作者です！

主人公紹介？（前書き）

はじめて小説書きます！

見苦しいところばかりだと思いますが、まあ…生暖かい目で見てください！

主人公紹介？

はじめまして！

わたしの名前は、千葉佐月です！身長159センチ体重は秘密で！……まあ45です……。

髪の色は、自分でもビックリするほど真つ黒！ビバ平凡！

ちなみに19歳女子大生です！ぴっちぴちなね！

言葉づかいが古臭くてもいいもん！最近、友達にも……ついていけないし……むう……ぐすん……同じ考えの人だっている！……はず……

……

……

……はあ。

なんで、あの言葉づかいでわかるんだろう……自分の勉強不足です……はい。

時には諦めも大切だよね！

どんどん話が脱線してるね！

何で、自己紹介してるかと言いますとですね……はい！現在進行形で現実逃避中です！

主人公紹介？（後書き）

自分の頭の悪さに涙：

1話(前書き)

はじめて?会話です!

1話

いま、なぜか自分はおつきいベッドの上にあります！それも、イケメンに剣を突き付けられて！

…なんで！？ここはどこ！？

「お前は誰だ？何処から入った？」

やっぱり？それって決まり文句だよな？

「答える。答えなければ…なあ？」

…普通『殺す』じゃないの！？なあって何！？

「答えぬ気が？なら」「はい！ちょっと待ってください！」

……

すっごい顔で睨まれています…。

とりあえず待つてくれるみたいなので、確認！状況把握は大切！
まず、私は学校から帰ってたよね？

いつつも、7時くらいまで学校にいるから暗くて…。

それで…えっと…ん？あ！そうだ！いつもより改札が空いて
て…て言うか、誰も居なくて…「ラッキー」なんて思いながら電車を
待って…。

しばらくして、電車がきて、後少しでホームにつくって時に…後
ろから突き落とされました…うん…死んだね自分！

…で、ここは何処ですか？

1話（後書き）

会話になってない…

2話(前書き)

見ずらくてごめんなさい！
自分なりに気を付けます！

2話

とりあえず…ここは何処？

1 人に聞いてみる

「ここは何処ですか？」

「お前は…阿呆か？」

はい…無理でした…

2 環境を見て把握！

窓は…あつた！でも真つ暗！

多分夜だね！赤い雷見えたけどね！

……

…雷はイヤー！特にあの音！近くに落ちたら凄かったんだから！…
うう…トラウマ…

と、思ったら音がない！防音仕様ですか！？

…また脱線してますね…はい…

とにかく！窓から何も見えませんでした！（雷以外は！）

…3、やっぱり人に聞く！

「本当に何処ですか？」（涙目&上目遣いで！）

「…お前は…命が惜しくは無いのか？」

あっさり撃沈！この人は本当に男ですか！？

「この剣が見えぬのか？」

…すっかり忘れてました！

2話（後書き）

進展遅い！

またしても会話じゃない！

3話(前書き)

中途半端でごめんなさい…

なかなか難しいです…

3話

この状況どうしよう…ひじょーに危ないよね？

とか、考えてたら…いきなり、く…首に剣添えられてる！

ま…また死ぬパターン！？

考え事してるとさ…まわりが見えないよね…

自分の欠点です…

私は、そつと目を瞑った…

………

…あれ？…死んでない？

私は、恐る恐る目を開け………

ひ！イ！イ！イケメンの顔が近づいてきてる！

近い！本当に近い！このままだとキ…とにかく危ない！

年齢〓彼氏いない暦な私は…恥ずかしいのさ…いろいろと…

とにかく！ピンチ！ピンチよ私！

パニックな私を気にせずに、男は…

「闇色の髪と瞳か…。」

と、言っただけで離れていった…。

……………へ！？

確かに…安心だよ？ただ…ね？そんなに魅力ないですか…私…。

そんな私の乙女心？を無視して、イケメンは手に持った鞘に剣を戻した。

……

……

…ん？戻した？なぜか知らないけど…助かったっぽい？

「気に入った。俺の妃にしてやる。」

……

……

…はい！？

3話（後書き）

やっと…無理矢理進めました…

ほんとに

ごめんなさい。

4話(前書き)

更新遅れてごめんなさい…

4話

……

…全然助かってない！それどころか、悪化した！？

…と言うか、結局ここは何処なのよ！

「ここは何処なのよ！？」

核兵器並な爆弾発言により、私のよわい頭はパニック状態！
普段、まったく使わない様な言葉を言ってしまった……

…うん…恥ずかしいね！自分でもビックリだよ！『よ』って…

まあ…つつ込むところが違う気がするよ…

「聞こえなかったか？私のきさ」わー！「……………」

…やっぱり、聞き間違えてなかった！

妃って…あの妃だよな？あの…っ……………妻って意味だよな？

……………

…何を考えているんだこの人！普通、相手をよく知ってからじゃないの！？

「お前の名は？」

私の質問は無視ですか！あんなに恥ずかしい思いしたのに！？

「普通は、自分から名前を言うでしょっ？」

どっしょっ？正論じゃない？あんな言われかたしたらむかつくよ！

イケメンだから言いづらいけどさ！無表情で怖いから強く言えないのよ…

「そうなのか？なら…俺の名はカイル＝マディレイ。魔王だ。」

……

……魔王ってなに！？

4話（後書き）

やっとイケメンの名前でした！

5話(前書き)

イケメン魔王…怖そうですね。

いろいろな意味で…

5話

…この人（人…なのかな？）魔王って言った？

魔王って…『魔物の王様』の魔王？

「あの…魔王って、魔物の王様っていう意味の魔王ですか？」

「それ以外意味があるのか？本当に…阿呆か？
それより、俺は名乗ったぞ？お前も名乗れ。」

「また言いますか！！あほうって…さらに、どれだけ知りたがり
！？？」

まあ…仕方ないよね？

「千葉 佐月と申します。」

フルネームで言われたら、そう返す…よね？

「チ…ヴァ…サツキ？」

……発音おかしいよね？

『ヴァ』って聞こえたけど？

「チバ…サツキです。ファミリーネームがチバです。」

「チヴァ…サツキ」

「…チバ」

「チヴァ」

「……………わざとですか？」

「いや…発音が難しい。

しかし…名の契りが終わったのだ…お前…いや、サツキは俺の妃だ。」

……………

「…はい！？いつ』いいですよ』と返事をしましたか！？」

「ついさっきだ。互いの本名を言ったではないか？変わった響きの名ではあったが…それとも…偽名か？」

「偽名じゃありません！」

「ならば、名の契りは成立する。」

……………

名の契りってなに!?

5話（後書き）

へたくソな文書でごめんなさい！

6話(前書き)

更新遅れました！
ごめんなさい！

6話

……名の契りって何!?

…わたし、とんでもないことした気がするよ…

「お前が証人だぞ?ブレアよ。」

…ブレアって誰!?何処にも居ないよね?

さっき部屋を見回したけど、人なんか居なかったし…

「…さすがに、ガルベス様へご相談した方がよろしいかと。」

「じゃあ…」

は…恥ずかし！ビックリして変な声出ちゃったよ…はあ。

…っつて、違うでしょ！

誰！？さっきまで居なかったよね！？

メイドさん…かな？遠いし暗いしで見えずらいけど…

「可愛い声だな。」

「…あう」

あう…っつてなに！？何なの！？どうした自分！

「不思議な言葉だが…それはどういう意味だ？」

「え…っつと…それは…あの」

「陛下、特に意味はないかと。」

「…そうなのか？」

「…はい。」

「ナイス！メイドさん。…いや、ブレアさんか？」

「…いや！違うでしょ！」

「あの…名の契りって何ですか？」

「うん。危うく流されるとこでした！…あぶないあぶない。」

「魔王さんに聞いても教えてくれなさうだから、ブレアさんに向かってきています！」

「…陛下？」の方へ？

また無視ですか！

「この国の者ではない。そして、『名の契り』の意味がわからない
…この世界の者でもないらしい。そうだろう？ サツキよ。」

…どう答えると？ …… まあ、少なくとも地球ではないよね！ 紅い雷
とか聞いたことないし！

「…これは日本ではないですよね？」

とりあえず確認！

「…これは魔国という。サツキの言うニホンという国はない。」

…地球ですらない！ まこく……とかないし！ ……うん！ 間違いなく異世
界トリップだね！

「つまりは、異世界人ですか？」

「そのようだ。」

…あれ？

「ならば、名の契りは無効なのでは？」

「いや有効だ。先代も契りが有効であった。」

異世界人とか…え？なに？結構しよっちゅうあること？

「あの…お話ししてるところを申し訳ないのですが…異世界からは、よく人が来るんですか？」

「いや。サツキを含めて三人だ。」

なんで落ち着いてられるんだろう？

6話（後書き）

相変わらずへたでござめんなさい！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7412t/>

魔王のお妃サマ

2011年7月9日15時31分発行